

カートレースで仲間との絆が 培われました



株式会社 富田商店
(尾張西支部)
専務取締役
富田 昭雄 さん

去る9月16日(土)に幸田サーキット(愛知県額田郡幸田町)で開催された青年部会有志のカートレース。そこで中心的な役割を果たされた富田商店専務取締役の富田昭雄さんに今回は趣味についてお話しを伺いました。仕事や青年部会の活動を精力的にこなす富田さんはどのように趣味を楽しんでいらっしゃるのでしょうか。

車好きが高じて

— 今回のレースは大変盛況だったようですね。

富田 そうですね、参加者も予想

以上に集まり、経営者だけでなく、会社のスタッフなども参加してくれたので新たな人間関係形成にもつながったようです。

— カートレースを開催するということは、もちろんカートがご趣味ということですよ。

富田 はい。とにかく車が若いときから好きで、鈴鹿のSR1000km耐久レースなどにも出場していました。300km耐久では初代のチャンピオンです。



— (サイドボードに飾ってあるトロフィーを見ながら) このトロフィーがその時のものですね。鹿が首に鈴をかけている…まさに鈴鹿ですね。そのレースを始めるきっかけは何ですか？

富田 仲間にも恵まれたということでしょうね。車好きが集まるとは車をバラバラにして、また組み立てるということをしていました。そのうち車好きが高じて規則の中で競ってみたいという思いがわいてきました。

— それはお幾つくらいの時ですか？

富田 この趣味は家庭を持ってから…私は21歳で結婚をして22歳で子どもが生まれました。その後



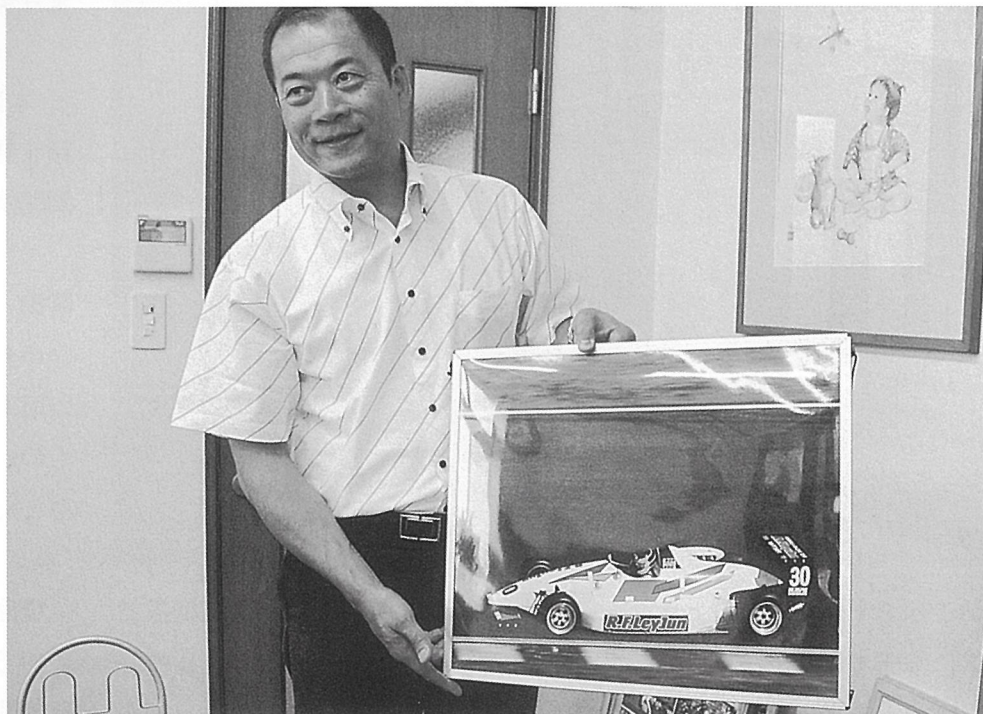
ですから26、27歳の時がスタートです。結構スロースタートですよ。

— そうですね。今カートという子どもの頃からやってるというイメージがあります。でも、その頃からのスタートということはご家族も一緒ですか？

富田 いえいえ。家族が来るのは8月末頃の耐久レースの時だけです。その時は表彰式の後に花火が上がるので子どもたちも喜ぶということで来ていました。

— (笑) レースが目的ではなくて…。

富田 1度娘が興味を持ちましたが、なかなか続かず、息子は野球一筋ですから。



— そういえば壁には野球選手のサインやグローブなども飾ってありますね。

富田 今息子がPL学園高校3年生で、硬式野球部に所属していますので、いろいろな方から頂いたものです。

— PL学園といえば野球の名門ですね。

富田 ご存知ですか？私は野球をあまり知らなかったんですが、男の子だからグローブとバットくらいはあるだろうと小学生の時に買ってやっ

たら、もうすっかり野球少年になってしまいました(笑)。おかげで私の趣味の時間はなかなかとれません。

— それでも息子さんのご活躍を見るの嬉しいことなんじゃないですか？

富田 はい。おかげさまで今年の春の選抜高校野球にも出場させてもらいました。

— それはご自分の趣味をちょっぴりお休みしても応援のしがいがありますね。

サーキットによみがえる思い

富田 もちろん息子の活躍は嬉しい





いことですが、先日のようなレースに参加するとやはり以前の思いが甦ってきますね。もちろん車自体の魅力もたくさんありますが、やはり仲間との絆です。レースはドライバーだけではできません。多くの仲間が集まって闘えるのです。先ほどお話した仲間は、警察官がいたり会社員がいたり、幅広いジャンルから集まっていました。そこで私は友人の大切さ、ネットワークの大切さを教えられました。今でもその頃の仲間とは連絡を取り合っているいい友人です。

— なんだかうらやましいご関係ですね。でも富田さんを拝見していると富田さん自身がそうやって人を集める魅力をお持ちなんじゃないかと思います。

富田 ありがとうございます。やはり私自身人とつながっていくことが大切だと思っていることはもちろんですが、何と云って顔を見る交流を心がけているということがあるかもしれません。名簿を見ているいろいろ作業しているよりも、サーキットで実際に顔をあわせて

挨拶をする、それだけで関係が深まります。

— 本当におっしゃるとおりです。顔を見て話をするということは人間関係にとっても大切なことですね。

富田 名古屋商科大学硬式野球部の中村監督に頂いた言葉で「人生の財(たから)は友なり」。というものがありますが、まさにその通りと実感しています。

今回はモータースポーツを通していろいろな友、仲間に出会い、その関係を大切に生きてきた富田氏にお話を伺いました。ご自分の使うヘルメットのデザインも手がけるという富田氏は会社のロゴマークにもアイデアを出すアイデアマン。モータースポーツで培った体力と頼られる兄貴分的な雰囲気を持った富田氏のこれからのご活躍によって開催される青年部会有志カートレースを楽しみにしています。是非次回はレースを取材させていただきたいと思います。

